

株式会社東陽テクニカ（東証プライム：8151）

# 2023年9月期 第1四半期決算説明資料

2022年10月1日～2022年12月31日

2023年2月8日

“はかる”技術で未来を創る



1. 2023年9月期 第1四半期決算概要
2. セグメント別状況
3. 2023年9月期 業績予想
4. 企業としての取り組み
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

# 1. 2023年9月期 第1四半期決算概要

2. セグメント別状況

3. 2023年9月期 業績予想

4. 企業としての取り組み

5. 時代切り拓く“はかる”技術への取り組み

# 2023年9月期 第1四半期業績結果

## 受注は好調、売上高は前期並み、粗利率低下と販管費増で減益

| 単位：億円 | 2022年9月期<br>Q1結果 | 2023年9月期<br>Q1結果 | 前期比   |        |
|-------|------------------|------------------|-------|--------|
|       |                  |                  | 増減金額  | 増減率    |
| 売上高   | 55.5             | 55.1             | △0.4  | △0.8%  |
| 営業利益  | 4.4              | △1.6             | △6.1  | —      |
| 経常利益  | 5.4              | △2.6             | △8.0  | —      |
| 当期純利益 | 4.0              | △1.8             | △5.9  | —      |
| 受注高   | 65.3             | 77.4             | +12.1 | +18.6% |
| 受注残高  | 127.8            | 177.8            | +49.9 | +39.1% |

## グリーンイノベーション分野、自動運転開発分野の受注が好調

### ■ 受注は好調、受注残高は大きく増加

- 投資が活況な分野への製品開発・営業注力により、受注高77.4億円（前期比+18.6%）、受注残高177.8億円（前期比+39.1%）と前期を上回る。

### ■ 売上高は前期並み、Q2以降に増加する見込み

- 仕入先の出荷遅延などにより売上高が計画通りに伸びず前期並みも、Q2以降に増加する見込み。

### ■ 営業利益は減少も、通期は期初公表値見込み

- 為替の影響や物性／エネルギーの売上減少などによる売上総利益率の低下と、成長戦略のための人財投資などによる販管費の増加で、営業利益が減少。

### ■ グリーンイノベーション分野 物性／エネルギーセグメント の受注が好調

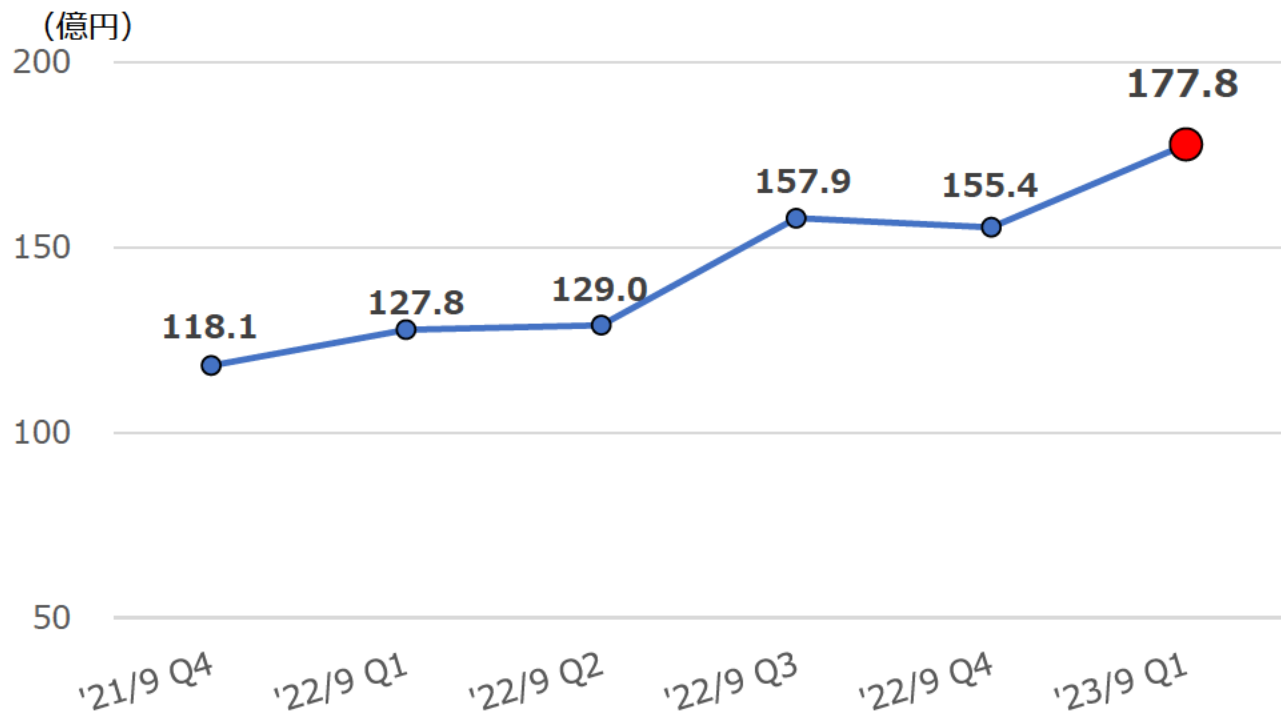
- 前期に引き続き、自動車業界を中心に脱炭素社会へ向けた研究開発投資が進む中、次世代電池開発用やEV向け急速充電用の評価システムの受注が好調。

### ■ 自動運転開発分野 機械制御／振動騒音セグメントで大型案件受注

- 自社開発の次世代自動車の開発向けソリューションが、一般財団法人日本自動車研究所（JARI）にAD（自動運転）／ADAS（先進運転支援システム）評価試験向けに採用。自社開発に注力し、マーケットの開拓、拡販を狙う。

# 受注残高推移

前期を上回る受注により、受注残高が大幅に増加

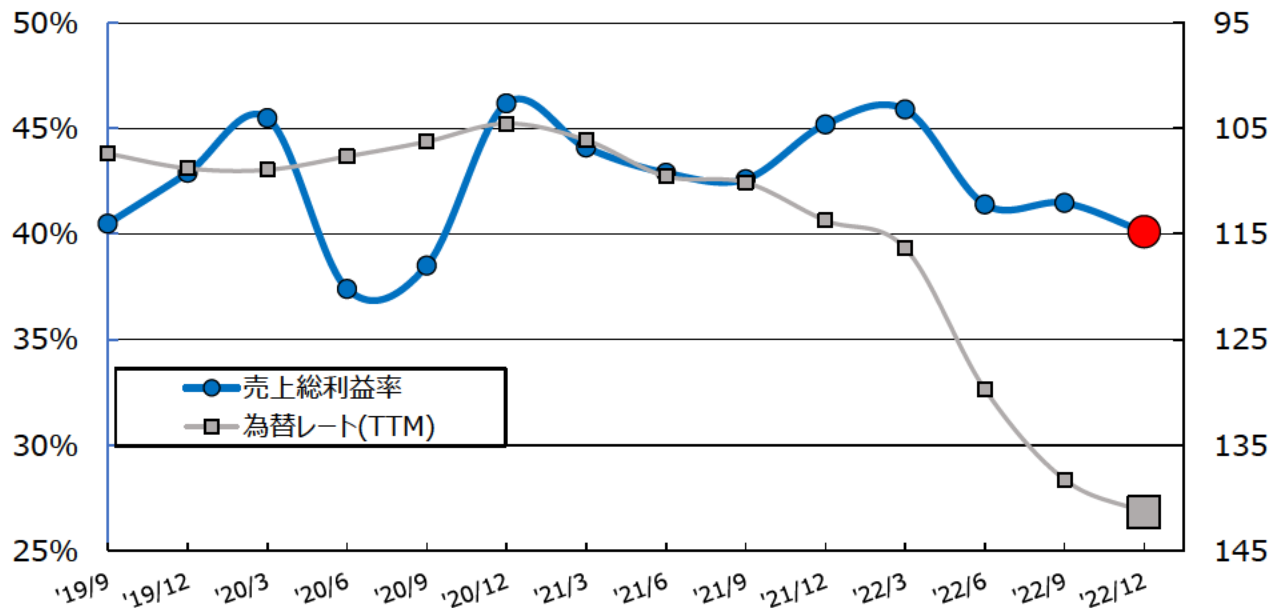


# 為替と売上総利益率

## 急激な為替変動により売上総利益率減も、40%は確保

売上総利益率

為替 円/USD



1. 2023年9月期 第1四半期決算概要

## 2. セグメント別状況

3. 2023年9月期 業績予想

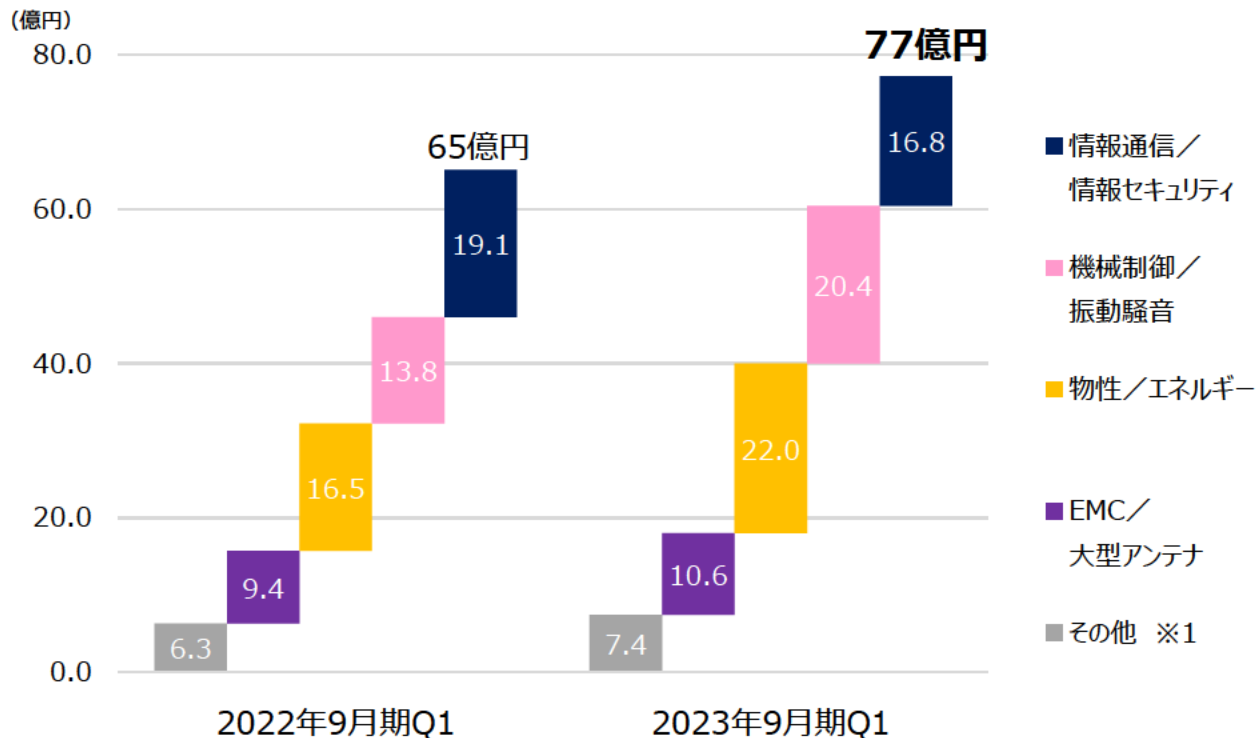
4. 企業としての取り組み

5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み



# セグメント別 受注高推移（累計）

## 受注高 前年同期比+18.6%



※1 その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

※ 当期より「ライフサイエンス/マテリアルズ」を「ライフサイエンス」に名称変更し、マテリアルサイエンス（材料評価）分野の製品ラインを「ライフサイエンス」から「物性／エネルギー」に移管しております。なお、前期については、変更後の報告セグメントの区分により作成しております。

## セグメント別 受注高・受注残高（累計）

### 物性／エネルギー、機械制御／振動騒音、EMC／大型アンテナが好調

（単位：億円）

| セグメント             | 受注高<br>(前年同期比)          | 受注残高<br>(前年同期比)          | 事業概況   |
|-------------------|-------------------------|--------------------------|--|
| 情報通信／<br>情報セキュリティ | <b>16.8</b><br>(△12.0%) | <b>29.7</b><br>(+10.0%)  | サービスプロバイダ向け情報セキュリティ製品の販売は堅調、5G／DX関連試験は、受注がQ2以降となる案件が多く、受注高が減少。                       |
| 機械制御／振動騒音         | <b>20.4</b><br>(+47.9%) | <b>35.1</b><br>(+103.5%) | 自社開発ソリューションが、JARIにAD／ADAS評価試験向けに採用され、受注高が大幅に増加。前期に米国大手自動車メーカーからの大型案件受注あり、受注残高が倍増。    |
| 物性／エネルギー          | <b>22.0</b><br>(+33.1%) | <b>50.8</b><br>(+112.8%) | グリーンイノベーション分野への投資活況、次世代電池開発やEV急速充電評価向けが前期に引き続き好調。仕入先出荷遅延により、売上がQ2以降となる案件が多く、受注残高が倍増。 |
| EMC／大型アンテナ        | <b>10.6</b><br>(+13.4%) | <b>41.6</b><br>(+14.7%)  | EMC分野の国内の受注が堅調。  |
| その他 ※1            | <b>7.4</b><br>(+17.2%)  | <b>20.4</b><br>(△12.5%)  | ソフトウェア開発支援では、受注が好調。海洋／特機では、前期の受注が計画を下回った影響で、受注残高が減少。                                 |
| 合計                | <b>77.4</b><br>(+18.6%) | <b>177.8</b><br>(+39.1%) |  |

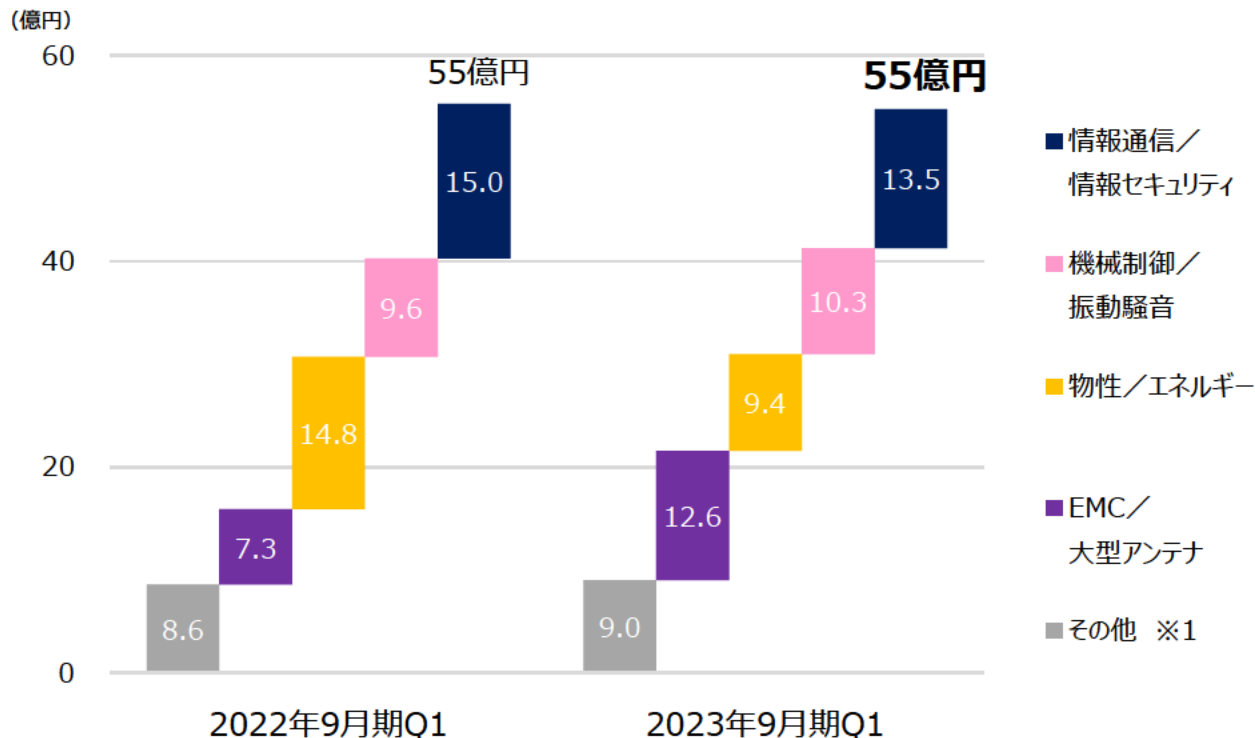
※1 その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

※ 当期より「ライフサイエンス／マテリアルズ」を「ライフサイエンス」に名称変更し、マテリアルサイエンス（材料評価）分野の製品ラインを「ライフサイエンス」から「物性／エネルギー」に移管しております。なお、前期については、変更後の報告セグメントの区分により作成しております。

「はかる」技術で未来を創る

# セグメント別 売上高推移（累計）

## 売上高 前期並み



※1 その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

※ 当期より「ライフサイエンス/マテリアルズ」を「ライフサイエンス」に名称変更し、マテリアルサイエンス（材料評価）分野の製品ラインを「ライフサイエンス」から「物性/エネルギー」に移管しております。なお、前期については、変更後の報告セグメントの区分により作成しております。

はかる技術で未来を創る

# セグメント別 売上高・セグメント利益（累計）

## 物性／エネルギー 仕入先の出荷遅延によりQ2以降へ

（単位：億円）

| セグメント             | 売上高<br>(前年同期比)          | セグメント利益<br>(前年同期比)          | 事業概況  |
|-------------------|-------------------------|-----------------------------|---|
| 情報通信/<br>情報セキュリティ | <b>13.5</b><br>(△9.6%)  | <b>△0.01</b><br>(前年同期は+1.1) | 売上がQ2以降となる案件が多く、売上高が減少し、セグメント利益も減少。                     |
| 機械制御/振動騒音         | <b>10.3</b><br>(+7.3%)  | <b>0.4</b><br>(△54.2%)      | 振動騒音分野の研究開発投資は堅調に推移し、売上高が増加。販管費が増加し、セグメント利益が減少。         |
| 物性／エネルギー          | <b>9.4</b><br>(△36.6%)  | <b>△0.3</b><br>(前年同期は+3.2)  | 受注好調も、仕入先の出荷遅延により、売上がQ2以降となる大型案件が多く、売上高が減少し、セグメント利益も減少。 |
| EMC/大型アンテナ        | <b>12.6</b><br>(+72.0%) | <b>0.6</b><br>(+154.2%)     | 中国では、コロナ感染拡大によって遅れていた出荷が再開され、売上高が大幅に増加。                 |
| その他 ※1            | <b>9.0</b><br>(+4.7%)   | <b>1.0</b><br>(+3.1%)       | ソフトウェア開発では、好調な受注に伴い売上が増加。                               |
| 全社費用 ※2           | -                       | <b>△3.4</b><br>(+55.9%)     | 人件費が増加。   |
| 合計                | <b>55.1</b><br>(△0.8%)  | <b>△1.6</b><br>(前年同期は+4.4)  |   |

※1 その他には海洋/特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンスの3セグメントが含まれます。

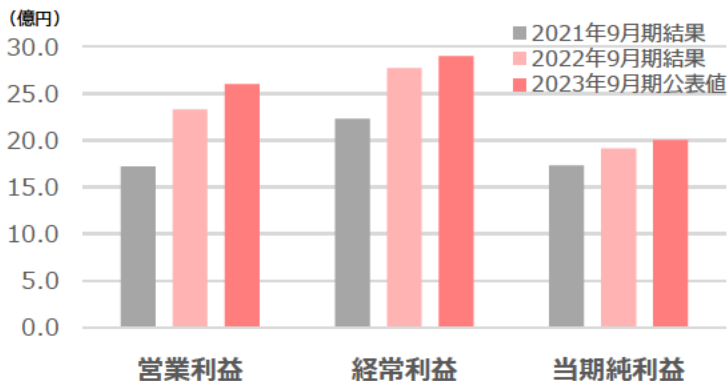
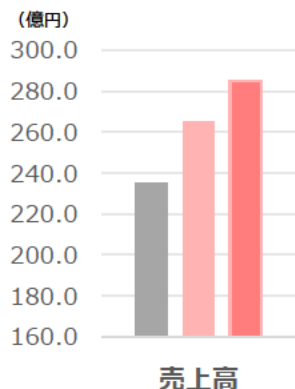
※2 全社費用は、報告セグメントに帰属しない営業費用のほか、引当金の計上方法による差異等が含まれます。

※ 当期より「ライフサイエンス/マテリアルズ」を「ライフサイエンス」に名称変更し、マテリアルサイエンス（材料評価）分野の製品ラインを「ライフサイエンス」から「物性／エネルギー」に移管しております。なお、前期については、変更後の報告セグメントの区分により作成しております。

「はかる」技術で未来を創る

1. 2022年9月期 決算概要
2. セグメント別状況
- 3. 2023年9月期 業績予想**
4. 企業としての取り組み
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み

## 期初公表値から変更なし 前期比 増収・増益、成長戦略を継続



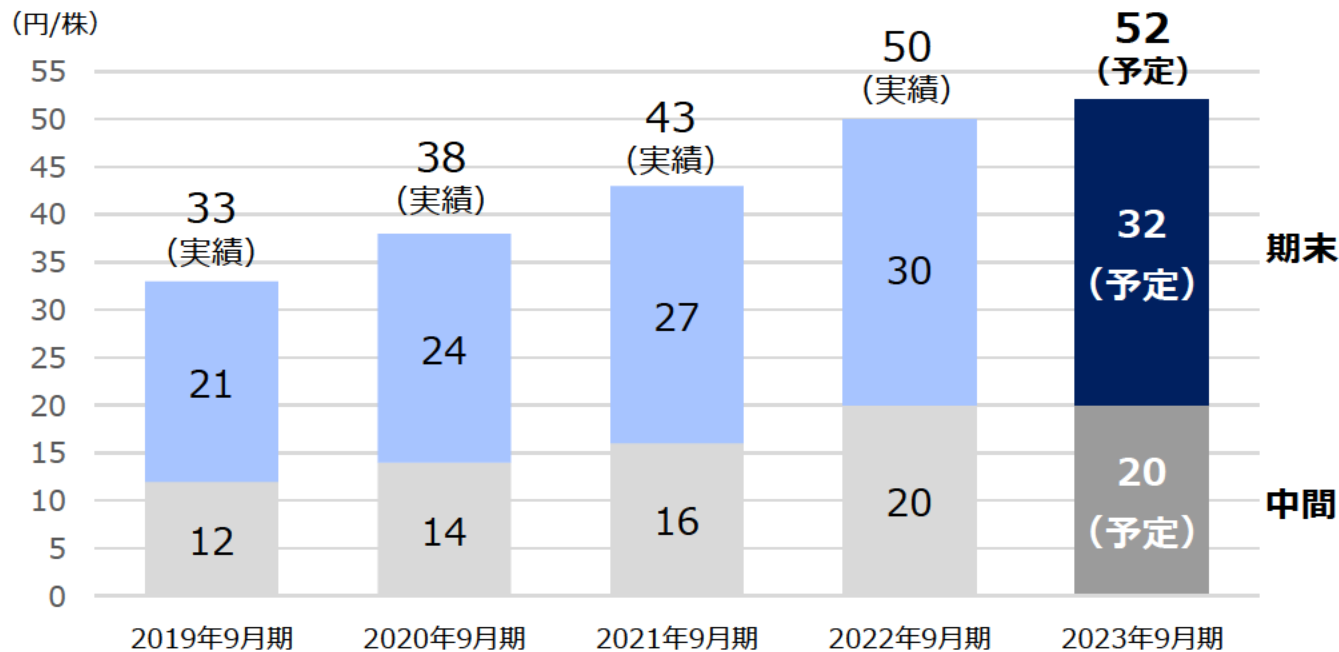
| 単位：億円 | 2021年9月期<br>結果 | 2022年9月期<br>結果 | 2023年9月期<br>公表値 |
|-------|----------------|----------------|-----------------|
| 売上高   | 235.1          | 264.9          | 285.0           |
| 営業利益  | 17.2           | 23.3           | 26.0            |
| 経常利益  | 22.3           | 27.7           | 29.0            |
| 当期純利益 | 17.3           | 19.1           | 20.0            |

\* 2021年9月期は政策保有株式の売却などにより、特別利益3億3千8百万円を計上しております。

# 配当金

## 期初予想から変更なし 2022年9月期比での増配を予定

2022年9月期より新しい配当方針となり、**DOE\*4%**または、**連結配当性向60%**のいずれか大きい配当額を選択



※ DOE (自己資本配当率) = 年間配当総額 ÷ 自己資本

1. 2022年9月期 決算概要
2. セグメント別状況
3. 2023年9月期 業績予想
- 4. 企業としての取り組み**
5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み



## 自己株式の取得

株主還元および資本効率の向上と、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を図るため、自己株式の取得を実施しております。

### 取得の内容 2023年1月31日現在

- |                |   |                       |
|----------------|---|-----------------------|
| (1) 取得対象株式の種類  | : | 当社普通株式                |
| (2) 取得した株式の総数  | : | 86万500株（上限200万株）      |
| (3) 株式の取得価額の総額 | : | 11億3,862万円（上限20億円）    |
| (4) 取得期間       | : | 2022年8月12日～2023年8月10日 |

1. 2022年9月期 決算概要
2. セグメント別状況
3. 2023年9月期 業績予想
4. 企業としての取り組み
- 5. 時代を切り拓く“はかる”技術への取り組み**

## 次世代自動車開発にトータルソリューションで貢献

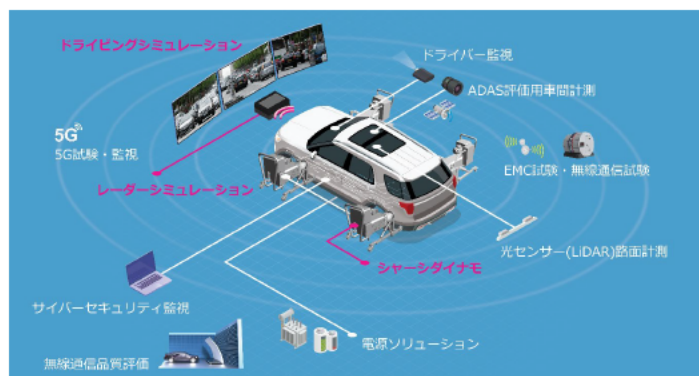
### AD/ADAS評価試験向けとしてドライビング&モーションテストシステム(DMTS)が JARIに採用、グリーンイノベーション基金事業の研究開発を支援

自社開発した「ドライビング&モーションテストシステム(DMTS)」が一般財団法人日本自動車研究所(JARI)にAD(自動運転)/ADAS(先進運転支援システム)評価試験向けに採用されることが決定しました。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)に創設されたグリーンイノベーション基金事業のテーマの一つである「電動車両シミュレーション基盤」の研究開発の一環で、2023年12月に納入を予定しています。

「DMTS」は、次世代自動車の開発・普及に向けて、当社のさまざまな事業分野から技術を結集し開発したソリューションです。

今回のJARIのプロジェクトを支援することで、自動車サプライチェーンにおける電動化・自動化の開発体制の高度化を図り、次世代自動車開発期間の短縮化に貢献します。



「DMTS」機能イメージ

(参考：[https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/230127\\_dmts\\_71024.pdf](https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/230127_dmts_71024.pdf))

## オープンイノベーションー新たな「仲間づくり」を積極的に推進

### エアモビリティ



SkyDriveが設計開発中の「空飛ぶクルマ」の商用機「SD-05」©SkyDrive

「空飛ぶクルマ」および「物流ドローン」を開発する株式会社SkyDriveと2022年12月に協業を開始しました。SkyDriveが開発中の「空飛ぶクルマ」の実用化に向けて、東陽テクニカからは操縦性や乗り心地などの性能をはじめ、振動騒音、安全性や耐久性などにおける研究・開発に使われる計測と解析、実験データの管理に関する機器やソリューションを提供し、エアモビリティ社会の実現を共に目指してまいります。

(参考：  
[https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/221221\\_skydrive\\_71018.pdf](https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/221221_skydrive_71018.pdf))

### スペースICT



陸上、海洋、空域から宇宙に至る全ての領域をシームレスにつなぐ高度な情報通信ネットワークの実現を目指し国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)が設立した「スペースICT推進フォーラム」において、当社は、二つの分科会「5G/Beyond 5G連携技術」「光通信技術」に参画しています。情報通信、大型アンテナとそれぞれの分野で新たな通信技術の実現を目指しています。

(参考：  
[https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/221109\\_nict\\_optical\\_antenna\\_71010.pdf](https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/221109_nict_optical_antenna_71010.pdf))  
「はかる」技術で未来を創る

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先  
株式会社東陽テクニカ  
経営企画部  
toyo-ir@toyo.co.jp